

令和8年「市民と議会のわがまちトーク」報告書

産業建設委員会

開催日時	令和8年4月19日（日） 午後1時30分から3時まで
開催場所	舞鶴市役所本庁本館4階 議員協議会室等
テーマ	創業・起業の支援について ～一歩踏み出すための支援を考える～
参加市民	24人
出席議員	担当委員会：産業建設委員会 今西克己、尾関善之、上野修身、高橋秀策、福本明日香、松田弘幸 サポート委員会：総務消防委員会 川口孝文、小谷繁雄、小西洋一、西村正之、山本治兵衛 オブザーバー 肝付議長 議長、野瀬貴則 副議長

内 容

【全体概要】

多様な視点から御意見をいただくため、次のような方々に御参加いただくこととし、事前に創業・起業支援の現状に関する資料を送付することにより、一定の御理解をいただいた上で、当日に臨んでいただいた。

- (1) 商工会議所
- (2) 商工会議所青年部
- (3) 舞鶴工業高等専門学校・京都職業能力開発短期大学校の学生、職員
- (4) 青年会議所
- (5) テーマに関心を持つ市民（公募）



当日は、創業・起業等の新たなチャレンジに際して、どのようなハードルがあり、それを超えるためにどのような支援が必要か、また、行政ができる支援はどのようなことかを検討した。

各グループの意見交換の内容は、次のとおり。

1班 担当議員：尾関善之 市民参加人数：5人

《創業・起業等の新たなチャレンジに対するハードル》

- ・ 創業・起業のための資金をどのように確保するか。
- ・ 新しい企業（商店）として街に、お客様（市民）に受け入れてもらえるか、また何ができるか。
- ・ 創業・起業までの道のりとして、場所・資金・人材等やることが多い。
- ・ 短大の学生として創業・起業について学ぶ機会がなく、イメージがわからない。
- ・ 創業・起業した場合、同業者との関係についてうまくいくか心配。
- ・ 得すること、損することの知識が必要。
- ・ 今の生活と創業・起業した場合の生活を天秤にかけてみる。
- ・ 創業・起業する上で必要な法務、税務、許認可等ルールを知ること。



《そのハードルを超えるために必要な支援》

- ・ 関係機関との独自性の取組の中で、人と人の出会いを大切にすることによって支援者となっていただくこと（参加者体験談）。
- ・ スポンサーに向けた、応援したくなる事業・プロジェクトの目的。
- ・ 同じ起業する立場の人との意見交換ができる機会（現場等における課題解決に向けた取組など）。
- ・ 起業セミナー等、具体的な事例の勉強会。
- ・ 交流などを通して応援してくれる仲間づくりの場の提供。
- ・ いつでも創業・起業できる支援の環境（行政または商工会議所等のワンストップ窓口の設置）
- ・ 税務、法務、許認可ルール等の確認。
- ・ 資金を募る、スポンサー企業への情報発信の提供など。

《その支援のうち、行政ができること》

- ・ 課題が多岐（金融については資金調達や補助金等の情報、市場については顧客ニーズ、競合等に関する情報等、法務については労災、公的、税務、許認可等、また今回意見に出たスポンサー企業への情報発信など）に渡っていることから行政、商工会議所などによるワンストップ窓口の設置が必要と考える。
- ・ 学校には進学・就職等の情報はあがるが起業についての情報がないので、学生に対しても関係機関からの情報提供が必要と考える。

《その他》

- ・ 学生から「防災関連事業で起業してみたい。」と意見があり、その話に自社で防災関連も取り組まれている経営者から、事業内容等を話していただくなど参考になったと考える。

2班 担当議員：上野修身 市民参加人数：5人

《創業・起業等の新たなチャレンジに対するハードル》

- ・ 必要な資金を確保することが困難である。
- ・ 申請や許認可の手続きが厄介である。
- ・ 起業するにあたって、知識・経験不足に不安を感じる。
- ・ 収入見込が読めない中で、安易に踏み込めない。
- ・ 頼りになる人がいないのが不安。

《そのハードルを超えるために必要な支援》

- ・ 資金援助や融資制度の充実。
- ・ 行政手続のオンライン化・簡素化。
- ・ 情報提供の支援。
- ・ コンサルによる個別指導。

《その支援のうち、行政ができること》

- ・ 起業支援制度や補助金の整備。
- ・ 面接などにより、やる気のある人を優遇する。
- ・ 起業に関する情報発信、相談窓口の設置。
- ・ セミナーやワークショップの開催。



3班 担当議員：高橋秀策 市民参加人数：5人

《創業・起業等の新たなチャレンジに対するハードル》

- ・ 運転資金、資金調達。
- ・ 補助金や助成金情報。
- ・ 事業に対する家族の理解。
- ・ 事業計画の策定。
- ・ 登記手続に関しての助言。
- ・ 集客の相談。
- ・ 産官学の連携の強化。

《そのハードルを超えるために必要な支援》

- ・ インキュベーション施設の普及（認知の拡大）。
- ・ 創業シミュレーションができるシステム。
- ・ 補助金のサポートがスムーズに行われる仕組み。
- ・ 一歩踏み出せる場の提供。
- ・ 学生とのマッチング（DX）。
- ・ スタートアップのテーマを絞って、その領域で起業するなら舞鶴という方向性を、行政としてしぼる。
- ・ 事業を知ってもらうためのPRの場の創出。
- ・ サービスを利用してもらうための斡旋。
- ・ スタートアップカフェ。



《その支援のうち、行政ができること》

- ・ 産業支援プラットフォームに気軽に行けるような雰囲気のものにしていく（たとえば、スタートアップカフェのような窓口をつくる）。
- ・ インキュベーション施設の普及
- ・ スタートアップのテーマを絞って、その領域で起業するなら舞鶴という方向性を、行政としてしぼる。
- ・ 起業応援体制の強化。

4班 担当議員：福本明日香 市民参加人数：4人

《創業・起業等の新たなチャレンジに対するハードル》

- ・ 資金的な不安、サポート体制への不安。
- ・ どんな業種が起業できるか、自分に合った業種の選択とは何か、知るきっかけがない。
- ・ 起業コンペなどがあれば、参加したい、起業したいという思いが湧くかもしれない。
- ・ そもそも起業に手厚くないと、このまちに住みたいと思わないから、起業したいと思う意識がある人は、舞鶴にこだわっていない。だからこそ、他の自治体より起業への支援が充実している必要がある。



《そのハードルを超えるために必要な支援》

- ・ 市がどの程度バックアップするのか、できるのか、主導になって発信していく必要がある。
- ・ やる気がある子を吸い上げて、どのようなことができるのかを徹底的にニーズ把握して、そこに届く支援を考えて、応援しているっていうのがわかるようなことをしてほしい。
- ・ 民間がやっているピッチコンテストでも、市が介入して、積極的にそういう若者を逃さない熱意が大切。
- ・ どういう発信がしたいのか、腹をくくった支援がほしい。

《その支援のうち、行政ができること》

- ・ 使いやすい補助金と広報サポートなど、起業しても安心して生業が続けられる仕組みを作してほしい。
- ・ 意見交換会の開催など、民間ノウハウをしっかりと取り入れて、他の自治体に負けないオリジナルの起業支援を作り出してほしい。
- ・ 商工会議所などともっと強い関係性をとって、任せっきりにならない支援を行ってほしい。

5班 担当議員：松田弘幸 市民参加人数：5人

＜創業・起業等の新たなチャレンジに対するハードル＞

- ・ 家庭・家族の理解が必要（配偶者・家族の協力がないと進めにくい）。
- ・ 精神的なハードル（踏み出す勇氣、何をどうすべきか分からない）。
- ・ 地域、地元の理解不足（舞鶴の事情が分からない、ニーズや実態がつかめない）。
- ・ 知識・手法の不足（経理・確定申告、制度、具体的な進め方が難しい）。
- ・ 学ぶ機会が少ない、遠方だと負担が大きい（資格取得や学習がしづらい）。
- ・ 生活面の負担（仕事を続けながらだと生活力が落ちる、資金・生活リズムが不安）。
- ・ 起業後（継続・新規取組）のハードル。
- ・ 資金面の不安（運転資金が続かない、将来が読めない）。
- ・ 仕事（顧客）の確保が難しい（人口減の中で既存の客の奪い合いになりやすい）。
- ・ 宣伝・認知が不足しがち（「近所にあったのか」と言われるなど集客の壁）。
- ・ 場所・人脈が重要（場所が命の業種もあり、人脈がないと知恵を借りづらい）。
- ・ 人手不足・人材確保が難しい（雇いたくても集まらない）。
- ・ 既にやっている人との競争（既得権的な壁）（地域内で取り合いが起こり得る）。
- ・ 行政の方針、情報が見えにくい（市の方向性が分からないと、新規が外れる可能性）。
- ・ 相談先や支援の“入口”が分かりにくい（何を揃えて、どこに相談すべきか不明）。



＜そのハードルを超えるために必要な支援＞

- ・ どこに相談すればいいか分からない（制度の条件が分からない）。
- ・ ある程度状況が分かれば、気軽に相談・アドバイスが受けられる体制が必要。
- ・ 起業前後を通じた伴走（情報提供＋不安解消）。
- ・ 補助金だけでなく、スタート後の不透明さ（軌道に乗るまでの不安）に対応できる支援。
- ・ 継続して相談できる仕組み（コーディネート）があると安心。
- ・ 資金支援の強化（ただし、準備金だけで終わらない設計）。
- ・ 初期費用だけでなく、起業してからの運転資金・生活面の支援も重要。
- ・ 「起業前に使える」支援があると踏み出しやすい。
- ・ 学ぶの機会・資格情報の提供（地域内、夜間にも配慮）。
- ・ 勉強機会が少ない、遠方だと負担が大きいので情報発信がほしい。
- ・ AI活用等も含む、実務に役立つ講座・スキルアップのリクエスト制度があると良い。
- ・ 働きながら参加しやすい時間帯（夜など）での学習支援。
- ・ 職場見学・体験の機会づくり。
- ・ 就職や起業の判断のために、職場や実際の活動を見学できる機会がほしい。
- ・ 起業者の活動内容が“見える化”されると参加者が増える。
- ・ 交流・発表の場の増加（学習と出会いの両立）。

- ・ 研修会だけでなく、実際に活動している人の報告・発表が聞ける場を増やす。
- ・ 気軽に集まれる場が新しいつながりを生む。
- ・ 人脈・出会いのコーディネート（公平性にも配慮）。
- ・ 相談内容に合った相手につないでくれるコーディネーターが必要。
- ・ ただし、特定のつながりだけが得をする形（既得権化）にならないよう公平に複数ルートを示してほしい。
- ・ 仕事の確保につながる“つなぎ”の仕組み。
- ・ 起業直後は顧客がいらないため、空き期間に外注・バイト等で参入できる仕組みがあると助かる。
- ・ 仕事のない期間を埋められる「ウィンウィン」の関係を作りたい。
- ・ 宣伝・情報発信の支援。
- ・ 起業しても認知されないので、PRや発信（市内での見える化）が重要。
- ・ どんな人が起業し、何をしているかを発信すると集客につながる。
- ・ 産業や地域の重点化・連携（集中の発想）。
- ・ すべてを広く支援するより、力を入れる産業や方向性を絞って支援した方が出やすい。
- ・ 行政と民が一体で地域の方向性を示すことが必要。

《その支援のうち、行政ができること》

- ・ 相談窓口（支援の入口）を分かりやすく整備する。
- ・ 「どこに相談すればいいかわからない」を解消し、ある程度条件が分かれば気軽に相談できる体制が必要。
- ・ 起業後の不安（運転資金・継続不透明）への支援策。
- ・ 補助金など“お金”だけでなく、起業してから軌道に乗るまでの継続支援も手厚くしてほしい。
- ・ 資格・講座・学びの機会の情報提供、実施。
- ・ 資格や学習の機会が少ない（遠方だと負担が大きい）ので、情報発信や業種に合った講座（夜間なども含む）を整えてほしい。
- ・ AI活用など、実務に役立つ講習やリクエスト制度があると良い。
- ・ 気軽に集まれる場・交流・発表の機会を増やす。
- ・ 研修会だけでなく、起業者が活動を報告できる場、参加しやすい集まり（わがまちトーク的なもの）を増やしてほしい。
- ・ 職場見学・体験機会や“見える化”の支援。
- ・ 就職や起業の判断材料として、職場見学をオープンにする等、実態が分かる仕組みがほしい。
- ・ 起業人や活動内容を市として発信し、認知・集客につなげる。
- ・ 人・仕事のマッチング、コーディネート機能。
- ・ 相談者に合う支援先や相手をつないでくれる“コーディネーター”が必要。
- ・ ただし、特定の人だけが得するような形にならないよう公平性にも配慮して、複数ルートを示せる形が望ましい。
- ・ 仕事の確保につながる“つなぎ”の仕組みの検討。
- ・ 起業直後に顧客がいらない期間を補うため、外注・臨時の受入など、関係者がウィンウィンになる運用の仕組みがあると良い。
- ・ 重点化（起業しやすいまち・産業の方向性）。
- ・ なんでも一律に支援するより、力を入れる産業・地域の重点化（起業しやすい環境づくり）が必要。
- ・ 行政と民が一体となった方向性が望ましい（特に人材・集客面）。

【今後の予定】

創業・起業等、新たにチャレンジする際のハードルについて認識し、それを解消するための支援に関する意見交換をすることで、課題の解決に向けた意見・アイデアを共有することができた。

出された意見をもとに調査研究を進め、行政が実施すべき支援や施策などを整理して、市への提言を目指す。